

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	山村の地域遺産から学ぶ体験学習支援システム構築事業
対象地域	長野県下水内郡栄村
活動概要	<p>有数の豪雪地帯として知られる栄村は、急速に進む少子高齢化による人口減少と過疎化に直面している。高齢化率は45%に迫り、若者人口の減少による出生数の減少は小学校の廃校の危機を招くばかりか、除雪作業員の高齢化と不足により約5カ月に及ぶ冬の生活の安全と生活基盤の維持を脅かしている。しかし若者定住を促すために必要な安定的な雇用は少なく、村内の事業所数は過去20年間に約4割減少し、基幹産業である農業を除けば大型観光宿泊施設を運営する財団法人栄村振興公社が期待されるものの観光客数が伸び悩み、村による赤字補填が実施されるなど経営不振が続いている。大型観光施設に依存せず、地域内にある自然・文化・歴史等の地域遺産を活用した事業を振興することにより、国内のみならず海外からの交流人口の拡大を目指すことが喫緊の課題である。</p> <p>このため、栄村の基盤となる豊かな自然と、豪雪を生き抜く中で培われた生活の知恵や独自の文化など貴重な有形無形の地域遺産を守り、発展させ、活用するために必要な基礎的な情報が必要であり、行政で把握できていない明文化されていない属人的な知識や経験、昔語りなどを掘り起こすような包括的調査を行い、地域遺産を発掘・再発見するとともに、そこから得られた知見や情報を体系的に整理することによって、若者や村民が地域遺産の価値を理解して郷土への愛着と誇りをもった継承者となり、国内外からのビジターに地域遺産を紹介し、山村の暮らしの実体験を通じた自発的な学びの機会を提供する担い手となるような、体験学習支援システムの構築を目指す。</p>
今年度の主な取組	<p>【フェーズ1：地域遺産の活用ツール『対話型セルフラーニング・ツール』の構築】村役場教育委員会、産業建設課(商工観光係)、総務課(定住促進係)をはじめ、地域に点在する活動グループの指導・協力を得ながら村内の聞き取り調査、ワークショップの開催および文献調査を行い、地域遺産に関する包括的な情報を収集する。調査結果をもとに、村民およびビジターが地域遺産を利用しながら活動し、自然・文化・歴史などについて自発的な気づきや発見を得られるようにデザインされた質問事項、テーマ別ルート、地域住民に直接質問すると面白いこと、チャレンジ課題などと地図を統合した小冊子を日本語・英語の併記で作成し、栄村振興公社の観光施設や道の駅、JRの駅、インターネットなどで頒布し、村民・国内外のビジターが気軽に入手できるようにする。同時に、携帯電話とQRコードを活用し、スポーツ性と学習性を融合した栄村版オリエンテーリング(注)システムを構築し、若者など幅広い世代が地域遺産を活用し地域住民との対話を通じて自己学習できるような『対話型セルフラーニング・ツール』を構築する。(注)一般的な「オリエンテーリング」とは、地図とコンパスを用いて山野に設置されたポイントをスタートから指定された順序で通過し、ゴールまでの所要時間を競う野外スポーツの一種。</p> <p>【フェーズ2：栄村ガイドの養成】ガイドに興味のある村民がガイドとして活動するために必要な知識、話術、ノウハウなどを集約し、人材育成研修と定例会を開催し、ガイドに不可欠な知識・技術の共有と継続的な向上を図る。同時に、ビジターの経験・学びの機会を全村的に支援するため、栄村ガイド以外の一般の村民に対する協力要請と情報提供を行い、ビジターの活動をより豊かなものとするような支援体制を整える(例：道で出会った時に笑顔で話しかけたり、茶のみに招待してもらう。収穫な</p> <p>【フェーズ3：栄村ガイドバンクの構築および『対話型セルフラーニング・ツール』の活用】研修を受けたガイドを登録する「栄村ガイドバンク」制度を構築し、それぞれのガイドの得意分野、自己PR(例：農業体験を提供できる。自宅で郷土料理を一緒に作ったりふるまうことができる。)、ガイド可能な曜日・時間・人数、ガイド料、過去の実績などを登録する。またガイド派遣要請の受付窓口や派遣フローなどの派遣業務を確立すると共に、栄村ガイドやビジターが利用できる自転車等のレンタル用品を整備することによって、地域をフィールドとした体験学習を長期的に支援する体制の構築を図る。また『対話型セルフラーニング・ツール』の一部である携帯電話とQRコードシステムを利用し、栄村の四季を楽しみながら学ぶオリエンテーリングイベントも開催する。</p> <p>(フェーズ2・3については、次年度(平成21年度)以降の取り組み予定)</p>

活動結果	<p>調査開始当初は、個人的な接点のある情報提供者からの聞き取り調査に限定されていたが、調査が進むにつれ、既存の情報提供者の紹介などによって対象者が広がっていった。調査を通じて生まれた有機的なつながりは、さらなる情報収集、ガイド養成など今後の事業展開の各ステージにおいてきわめて貴重な資源となるもので、交流人口の拡大に支える基盤であるといえる。また、地域に関する膨大な情報を一般の利用者が利用し、学習の教材として活用できるようにするための体験学習支援システム準プロトタイプを完成することができた。今後は、システム利用者が自分で撮った写真や情報を提供し、他の利用者と共有することができる参加型機能を追加し、同時代の視点、非地域住民の視点からも情報を収集・蓄積・更新することができるオープンシステムとして運用し、課題解決に貢献するための道具として活用する道であると考えている。そして過去の生活は苦しくて現代では価値のないものと諦めていたお年寄りが聞き取り調査を通じて、自らの歴史について価値を再認識し、誇りを取り戻すきっかけを提供することができた。</p>
当初予想していなかった効果	<p>地域の高齢者の方に聞き取り調査を行う中で、当初否定的な反応が返ってきたが、何とか説得し、ゆっくりと話をしていくと次第に笑顔が見え始め、楽しそうに子供の頃の話などを聞かせてもらった。ほんの少しの時間お邪魔して、お茶を飲みながら季節の食べ物、天候のこと、農業のことを話しながらの聞き取り調査ではありますが、過去の生活は苦しくて現代では価値のないものと諦めていたお年寄りが聞き取り調査を通じて、自らが生きた歴史について価値を再認識し、誇りを取り戻すきっかけを提供できたことが想定以上の成果です。この経験を生かして、新年度4月より北信小学校と共同で、5～6年生の児童が地域のお年寄りに聞き取り調査を行う授業を実施する予定です。これによって異世代交流を活発化し、お年寄りに生きがいを、子ども達にはふるさとを深く知り、新しい絆を結ぶ機会を提供することで、地域の活性化に貢献することができると考えています。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>○地域ワークショップの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○個別ヒアリング調査の様子</p> </div> </div>
応募団体名	ワンライフジャパン
リンク	http://www.onelifejapan.com/index_j.html
部局/担当者名	川渕 友絵
連絡先	080-6520-1338
推薦市町村名	長野県栄村